



にじいろ

車いすバスケット 勝敗つける or つけない

パラスポーツについて体験したり、考えたりしてきた 4 年生。運動会までの道のりを松永さんに伝え、勝敗をつけなかったことで「たくさんの人が楽しめたこと」「不安に思う人が前向き参加できたこと」「学年のみんなでチャレンジできたこと」を褒めていただきました。子どもたちが、けんかや悪口がなくよかったことを話していると「えっ？みんなはスポーツするたびにけんかしてるの？」と松永さん。「うん、こそこそ話とかしてけんかになる。」と子どもたち。松永さんは、続けてこうお話されました。**「車いすバスケットは勝敗があるから、私は負けることもあります。負けると悔しいけど、どうしたらいいかを考えて自分で練習したり、チームメイトと相談したりして、次につながるから楽しいよ。苦手な人がいたら、自分がフォローすればいいし、一生懸命やれば負けても楽しいことはない？」**「ある！」と子どもたち。今回は、勝敗を決めて試合をすることにしました。

楽しく競技をするために

- ・ ふわふわ言葉を使って応援する
- ・ 励ます言葉を言う
- ・ ぶつかったら素直に謝る
- ・ チーム分けは平等にくじ引きにする



まずは、「大人チーム（松永さん 1 人か、職員 1 人が加わって 2 人）」対「子どもチーム（5 人）」で行いました。松永さんを相手に、チームのみんなでパスを出しながらボールをつなぐチームが多かったです。



全部の試合が終わると「もう一回！もう一回！」とコールが起こり、次は「1組の子どもチーム」対「2組の子どもチーム」で競技することになりました。



子どもたちのふり回りより

○くじ引きで決めたチームのみんなといっしょに、どうしたら点を入れられるかなどを話し合っ、勝ちに向かう楽しさを知ることができました。

○勝ち負けのよさを知りました。勝ったチームはどんどん上を目指し、負けたチームは作戦を立てて、次の相手にいどんでいきます。それを続けることでむげんに強くなれることを知りました。

○運動会では勝敗を決めなかったけれど、車いすバスケットでは勝敗をつけても楽しかった。あと2時間ぐらいやりたかった。ありがとう、松永さん。

○学んだことは、負けても楽しく思えたことです。くやしくても、次はどうやったら勝てるかを考えることも楽しさなので、負けたけど楽しかったと思うことにしました。

○勝敗をつけると、みんながかげ口を言ったり、あおる言葉を言ったりしてしまうことが、よく分かった。

○力を合わせて点数を取ったのに、試合が終わると人をあおる言葉や悪口が聞こえたから、そこを直した方がいいと思いました。

○勝敗をつけることになったら、とても勝ちたくなって、ズルをしてしまいそうでした。負けそうになるとあせってしまい、うまくできないことが分かりました。



子ども同士で勝敗をつけて試合をした途端に「〇〇さんが線から出てるぞ！」「〇〇さんずるい！」と乱暴な言葉が飛び交い始めました。結果は2組の勝ち。大喜びする2組と、落ち込む1組…。微妙な空気が流れました。「頑張ったから負けても楽しかった♪」という子どもたちがいた一方で、友達の言動について指摘する子も出てきました。

後日、みんなでふり回りをしました。松永さんは自分がパスをして相手が取れなかったら「ごめん！ぼくのパスが悪かったから取れなかったね。」と声をかけていたことに気付いた子どもたち。**得意な人ほど、苦手な人のフォローをしたり、相手のことを思った言動をとったりしている**ことに気付きました。「松永さんみたいになりたいね！」「相手のことを思えばいいんだよ。」と子どもたち。すてきなことに気付くことができました。

勝負なので勝てばうれしいし、負ければ悔しい…。勝ちにこだわって頑張る姿はすてきです。でも、それがけんかの原因になることも充分に分かっている子どもたち。今回気付いたことを活かして「**誰も**が楽しく過ごしたり、プレーしたりするためには？」という答えを追求し続けたいと思います。